

## 文化の家市民参画プロジェクト

文化の家ワーキンググループ（大規模改修について）第1回 記録

日時：平成26年9月17日（水） 午後7時から午後9時

場所：文化の家 企画室A/B

参加者：

公募メンバー 伊東 江利子、岩瀬 信廣、大島 令子、加藤 良行、近藤 均、都築 徳紀、広中 省子

ファシリテーター 浅野 芳夫 （公財）愛知県文化振興事業団 事業部長代理

文化の家 川上 實、靱山 勝人、浦川 正、白木 敏雄、石野 俊匡

創造スタッフ 小林 大地

### 内容

#### 1 配付資料確認（白木）

#### 2 館長挨拶

#### 3 ファシリテーター 自己紹介

テレビの制作、司会などからはじめ、平成6年から稲沢市民文化会館準備室―稲沢市民文化会館  
稲沢市民文化会館の改修を行い、平成26年度から愛知県文化振興財団で愛知芸術文化センターの改修  
にも携わっている。

長久手市文化の家にも何度も訪れており、すばらしいホールと感じている。

改修はどの会館でも避けては通れない問題であり、市民の意見・理解を得ることは重要と考える。

#### 4 参加者自己紹介

#### 5 事務局自己紹介

#### 6 現状説明

##### ① 香山事務所による改修に関する事前調査報告（白木）

##### ② 利用者アンケート集計報告（白木）

#### 7 ディスカッション 参加者意見より

- ・森のホール 階段の手すりが必要 若い人でも危ないときがある。

手すりに足元灯などの設備もあると良い。

- ・森のホール車いす席の増設について 今回のプランは（0列を取り外し可能にする）も良いが、アクセス方法も考えねばならない。現在の車いす席の前の壁をなくして1列前へ出すようにするのはどうか？

- ・風のホールも車いす席がステージから遠く、条件が悪い。名古屋市地下鉄の車いす対応も参考にしてほしい。

- ・今後車いす利用が増えることも予想されるので、対応してほしい。

- ・子育て支援の面からも、ベビーカーの対応も考えてほしい。

- ・展示室の壁を塗り直してほしい。

- ・トイレの洋式化

- ・機械的な物は専門家に従いたい。

- ・舞踊室を土足でも使えるような備品、設備がほしい。
- ・子ども（特に未就学児）の対応として、託児用の部屋、スペースの確保を。
- ・図書館通りからの入り口について間違えないような表示、形状にしてほしい。
- ・駐車場入り口の角度が急すぎる。
- ・防犯の意味も含め、駐車場の監視カメラの増設を（死角の無いように）
- ・花火大会への対応も考え、駐車場が拡張できると良い。
- ・舞台のワイヤーロープについて、交換基準は守るべき。

ファシリテーターより：法的基準はないが、メーカー推奨期限はある。

高所作業などについても同様に、舞台の作業としては明確な基準はない。

- ・森のホールの舞台機構について、あまり使われない形式は捨てても良いのでは。
- ・武豊町を視察したが、機械式ばかりではなく人力で行うことも考慮してはどうか。
- ・展示室について、長期間の利用がなかなかできないので、もう一つ展示室がほしい。
- ・現在の展示室は、壁の塗り直し、スポットライトの増設を希望。
- ・安全性を最優先にしてほしい。舞台機構、特定天井など。
- ・機能性について、妥当性についての説明がほしい。
- ・今回ファシリテーターがいてくれて、第三者からの解説が聞けて良かった。
- ・正面玄関がどこだか判りづらい。
- ・今回の改修については、市内だけではなく、周辺地域からの注目度も高い。広域的な視点で考えてほしい。
- ・展示室に備品として展示台がほしい。